

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	3
➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	11
➤ JRRN 会員募集中	12

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

「第15回ARRN水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」開催のご案内（8月@東京）

JRRN が事務局を担うアジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)の今年の国際フォーラム開催の事前案内です。

今年の“ARRN 国際フォーラム 2018”は、8月中旬に東京で開催される第12回生態水理学国際シンポジウム (12th International Symposium on Ecohydraulics: ISE 2018) の特別セッション “**River Restoration Methodology contributing to the Formation of Ecological Network**”として、応用生態工学会と共催で日本大学理工学部駿河台キャンパスにて開催します。

本年度で15回目を迎えるARRN国際フォーラムですが、日本での開催は2011年の東京以来、7年ぶりの開催となります。本シンポジウムには、河川・流域再生に携わる海外専門家も多数参加されるため、ARRNメンバーを含む本分野の活発な国際交流を期待しています。

本特別セッションの開催日時やプログラムの詳細は、6月中旬迄にはISE2018事務局より発表される予定ですので、詳細が判明後、ニュースレター7月号やホームページでもお知らせ致します。皆さまのご参加をお待ちしております。

なお、本特別セッションの参加には、ISE2018への参加登録が必要です。詳しくは、下記ISE2018ホームページをご覧ください。

ARRN 水辺・流域再生国際フォーラムの開催実績

回	開催年月	開催地	備考
1	2005.1	東京	ARRN 設立前準備会として
2	2005.10	東京	ARRN 設立前準備会として
3	2006.11	東京	ARRN 設立式典併催
4	2007.11	東京	
5	2008.11	北京	第4回APHW 分科会
6	2009.9	ソウル	第5回KICTワークショップ 分科会
7	2010.9	ソウル	ISE2010 分科会
8	2011.11	東京	
9	2012.11	北京	
10	2013.9	成都	第35回IAHR大会 分科会
11	2014.10	ウィーン	第5回欧州河川再生会議 分科会
12	2015.4	慶州	第7回世界水フォーラム 分科会
13	2016.8	仁川	HIC2016 分科会
14	2017.8	クアラルンプール	第37回IAHR世界会議 分科会



※ISE2018 ホームページはこちら: <http://ise2018.com/>

(JRRN 事務局・佐治史)

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクト – 平成 29 年度の活動総括 (河川基金助成事業) とお礼

昨年度は、公益財団法人河川財団より河川基金の助成を頂き、「小さな自然再生」研究会とともに水辺でできる小さな自然再生の普及促進に取り組めました。平成 29 年度の活動総括をご報告させていただきます。

【1】活動概要

多様な主体が協働し日曜大工的に自然環境の保全・再生に取り組む「小さな自然再生」の人材育成と全国活性化を目的として、平成 29 年度は以下の三つの活動に取り組めました。

- ① 技術向上と人材育成を目的とした「現地研修会」のシリーズ開催 (3 回)
- ② 普及啓発用の動画制作
- ③ ホームページを通じた研修会成果及び動画の全国普及

【2】「現地研修会」のシリーズ開催 (3 回)

水辺でできる「小さな自然再生」の考え方や留意点、現場の工夫等について、河川管理者及び本分野の有識者による講義や意見交換を通じて学ぶとともに、研修フィールドとなる現場の視察とワークショップを通じて、「小さな自然再生」でできる取り組みのアイデアや協働の進め方等について議論を深めました。

(1) 第 6 回現地研修会：

- 開催日：2017 年 10 月 17 日
- 開催地：福井県福井市・日野川／志津川
- 地元共催：国土交通省近畿地方整備局
福井河川国道事務所、福井県
- 参加者：66 名

(2) 第 7 回現地研修会：

- 開催日：2017 年 12 月 6-7 日
- 開催地：岡山県西粟倉村・吉井川流域
- 地元共催：エーゼロ株式会社
応用生態工学会 (大阪地区会、岡山地区会)
- 参加者：28 名



第 7 回現地研修会の様子 (岡山)

(3) 第 8 回現地研修会：

- 開催日：2018 年 2 月 27 日開催
- 開催地：秋田県大仙市・斉内川
- 地元共催：秋田県建設部河川砂防課
- 参加者：102 名



第 6 回現地研修会の様子 (福井)

第 8 回現地研修会の様子 (秋田)

【3】「小さな自然再生」普及啓発動画の制作

水辺でできる「小さな自然再生」の更なる普及促進を目的に、「小さな自然再生」の考え方や具体事例等を紹介する3分間の動画（2パターン）を制作しました。

この普及啓発動画は、「小さな自然再生」について知りたい、取り組んでみたいと考えている方々を対象に、専門的な内容は極力無くし、「楽しそうだな」「やってみよう」と興味を持てる内容となるように留意して制作し、JRRNのYoutubeページで公開しています。



■水辺の小さな自然再生コンセプトムービー（躍動編）

<https://youtu.be/Qno9739T7ho>

■水辺の小さな自然再生コンセプトムービー（情景編）

<https://youtu.be/VItaKMWuNbc>

【4】ホームページを通じた活動成果の普及

昨年度に実施した現地研修会の活動成果については、これまで開催したすべての行事と同様に、当日参加できなかった方々にもご活用頂けるよう「開催報告書」として取り纏め、JRRN ホームページや水辺の小さな自然再生ホームページを通じて公開しています。

JRRN では、研修行事の開催そのものを目的とはせず、現地研修会がきっかけとなり、次の新たな行動や挑戦に繋がることを目指しております。その為、研修会成果は次の活動に資するものとなるように意識して整理を行い、合わせて他の地域の小さな自然再生の担い手にも参考となるよう努めておりますので、是非とも皆さまにご活用頂ければ幸いです。



※開催報告書のダウンロードはこちらから：

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

最後に、過年度の諸活動にご支援・ご協力を賜りました共催団体関係者や行事参加者各位、「小さな自然再生」研究会の皆さま、また公益財団法人河川財団に厚く御礼を申し上げます。

JRRN ニュースレター7月号では、平成30年度の活動計画の概要を皆様にご紹介させていただきますので楽しみに。

(JRRN 事務局・後藤勝洋／和田彰)

水辺の「小さな自然再生」の普及に向けたこれまでの活動成果は、以下のホームページからもご覧頂けます。

■水辺の小さな自然再生ホームページ

<http://www.collabo-river.jp/>

JRRN 会員寄稿 (1) JRRN Member Contribution

川仲間になろう!! 第13回「川の日」ワークショップ関東大会 開催報告

寄稿者：花島綺一・芦沢龍太郎（筑波大学）

2018年3月17日(土)、第13回「川の日」ワークショップ関東大会を筑波大学にて開催致しました。実行委員会が主催し、国土交通省関東地方整備局の後援、筑波大学及び河川協力団体関東協議会の協力、またいい川・いい川づくり研究会の協賛のもと開催されたこのワークショップでは、17団体、50名を超える参加者にお越しいただきました。ここからワークショップ当日の内容を紹介していきたいと思います。

(1) エクスカーション

ワークショップ当日の午前中には、鬼怒川の平成27年における常総水害の被害箇所等の見学としてエクスカーションも実施されました。常総市役所、被害時の鬼怒川の破堤地点の二か所を巡り、常総水害の被害の大きさがどれほどのものだったのか、また今現在どのような対応がなされているのかを垣間見ることができました。



(2) ワークショップスタート・下館河川事務所の石田さんのお話

エクスカーションが終わった後は筑波大学に向かい、いよいよ第13回「川の日」ワークショップ関東大会のスタートです。

ワークショップの開会后、初めに下館河川事務所の石田さんから話題提供がありました。鬼怒川及び小貝川下流域大規模氾濫に関する減災対策を目的としたマイ・タイムラインについてのお話をいただきました。いわゆるソフト面から防災に寄与すべく、具体的には災害時に自分がどのような防災行動をとるべきか、また自身の生活環境を鑑みた上で避難に必要な情報やとるべき行動を事前に把握しておく重要性を今回のワークショップに参加した方々は改めて実感できたと思います。発表の中で小中学生向けにマイ・タイムライン資料として「逃げキッド」も紹介され、それを用いて実際に作成した小学生のマイ・タイムラインの例もあり、マイ・タイムラインをより身近なものとして感じられたと思います。



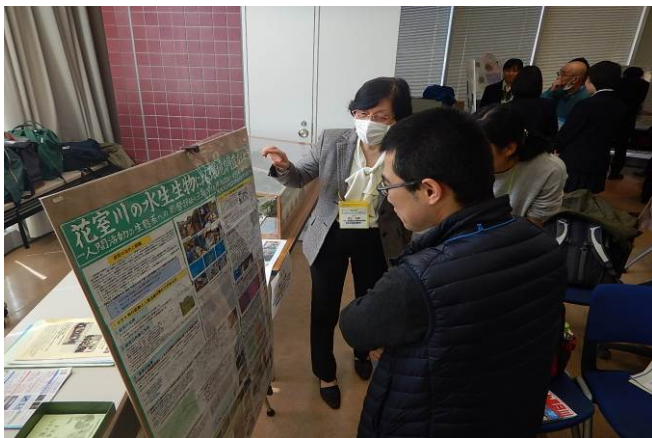
(3) 関東地方の河川協力団体の発表

石田さんの発表の後には、関東地方で活動している河川団体の皆様から発表がありました。「53PickUp!は地球を救う」をテーマにし、主に霞ヶ浦で清掃及び環境浄化活動をしているNPO 水辺基盤協会の吉田さん。次に、「アユが求める河川環境」をテーマに新河岸川で水質調査、生態調査を行っており、新河岸川流域の浄化及び環境保全回復を目的に活動している新河岸川水系水環境連絡会の菅谷さん。そして最後に「中学生と考える花畑川の将来像」をテーマに、主に花畑川・綾瀬川でアユの遡上調査や河川環境に関する知識啓発活動、花畑川を活かしたまちづくりを推進しているNPO 法人エコロジー夢企画の三井さん。それぞれの河川協力団体としての目的や活動内容がどういったものなのかを少ない発表時間の中で知ることができました。また発表後での質疑応答では、今後の活動や将来的にどういったことを目指していくのかもうかがうことができ、今回のワークショップで情報をシェアし合う良い契機となりました。



(4) ポスターセッション

午後の最初のプログラムとして、それぞれのグループが持ち寄ったポスターをもとに参加者たちと意見交換を行うポスターセッションが開催されました。ワークショップの参加者全員が自分の興味のあるブースで個別に発表者たちと意見交換を行うことで、全体発表の際よりも時間をかけて、より詳しく発表者の考えを知ることができました。またブースにおける発表者の方々も、全体発表会では聞くことができないような率直な意見やアドバイスをもらうことができ、双方にとって今後の研究をよりよくしていくためにとても有意義な機会となりました。



(5) 全体発表（午後の部）

午後の全体発表では、小学生から高校生までの学生たちが中心となり、川の生態系に関する発表を行いました。川で捕獲してきた生物の観察や、川に生息する生き物の種類の調査など、近隣の川の生態系に関する調査が特に多くみられました。川に生息する生物の絵をかいて詳しく解説したり、実際に捕獲した生物の標本を持ってきたりと、それぞれのグループが様々な工夫をすることで、より分かりやすく楽しい発表になっていました。



(6) 藤田光一さんによる講演会

第13回川の日ワークショップ関東大会の最後には、国土交通省国土技術総合政策研究所所長の藤田光一さんによる全体講評と講演が行われました。講演では、藤田さんご自身によって撮影された美しい自然の写真を多数紹介いただきました。川や山をはじめとする自然豊かな写真を目にする事で、自分たちが責任をもって守っていかなければならない自然の姿を再確認することができました。



本大会は、異なる研究や取り組みをしている団体が多数集まって意見共有を行うことで、角度の異なる意見をいただくとともに、今後の活動に対する刺激を得ることにもつながる素晴らしい機会となりました。本大会を開催するにあたってご尽力いただいた、第13回「川の日」ワークショップ関東大会実行委員会やいい川・いい川づくり研究会の皆様をはじめとする方々には厚く御礼申し上げます。

次回の「第11回いい川・いい川づくりワークショップ」（主催：いい川・いい川づくり実行委員会）は2018年9月8日（土）、9日（日）に北海道帯広市で開催予定です。詳細に関しては追ってのご連絡となります。



撮影：2013 年 7 月（沖縄県 南城市 ばんない堂 HP より）



あの日のあの川 リレー日記 ～第 38 話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第 38 話主人公 仲田英人

（筑波大学大学院 システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川（直）研究室『川と人』ゼミ）

（■川系男子）

（出身地を流れる川：沖縄県比謝川）

「追憶」

いつのこと？：幼稚園時代

どこの川？：垣花樋川

さて、今回担当となったのは、沖縄生まれ・沖縄育ちの筆者である。幼少期、青春時代に慣れ親しんだ川がテーマのこの企画、物心ついた時には川ではなく海が遊び場であった私にはどう書き始めるか数日悩まれた。沖縄には一級河川のような大規模な河川はなく、小さな川が流れてはいるが、それらも観光客が往来し、地元民がゆっくりと過ごし、馴れ親しむような場所にはなりにくくなっている。そもそも私が生まれ育った宜野湾市付近には遊び場になる川がなく、放課後友人と遊ぶ場所や、休日などに家族で出かける場所は海だった。そういうわけで、一度海について書こうかと悩んだが、昔の記憶を探るうち、筆者が幼稚園児の頃に父に連れていってもらった川があることをうすらと思い出した。名水百選に選定され、その中でも日本の最南端・沖縄県南城市の高台にひっそりと位置する垣花樋川、カキノハナヒジャーである。今回はこの川の情報を調べて記憶を補完しつつ、幼少期に想いを馳せながら書きたいと思う。昔の記憶ゆえ、現在の景観や利用方法が多少なりとも変わっていると思われるが、最後までお付き合いいただけたら幸いだ。

南城市は沖縄県の南部、太平洋に面した市で、県内 11 市の中で最も人口が少なく、また高校が存在しない市である。この一文だけみると寂しい土地のように感じるが、南城市に属する久高島は琉球神話において琉球の創世神アマミキヨが降りたち国づくりを始めたとする重要な聖地で、また琉球王国最初の統一王朝、第一尚氏王朝を成立させた尚巴志出生の地であることや、世界遺産に登録された斎場御嶽が存在する等、沖縄の文化や歴史として大変重要な場所となっている。



青に包まれる南城市 ばんない堂 HP より

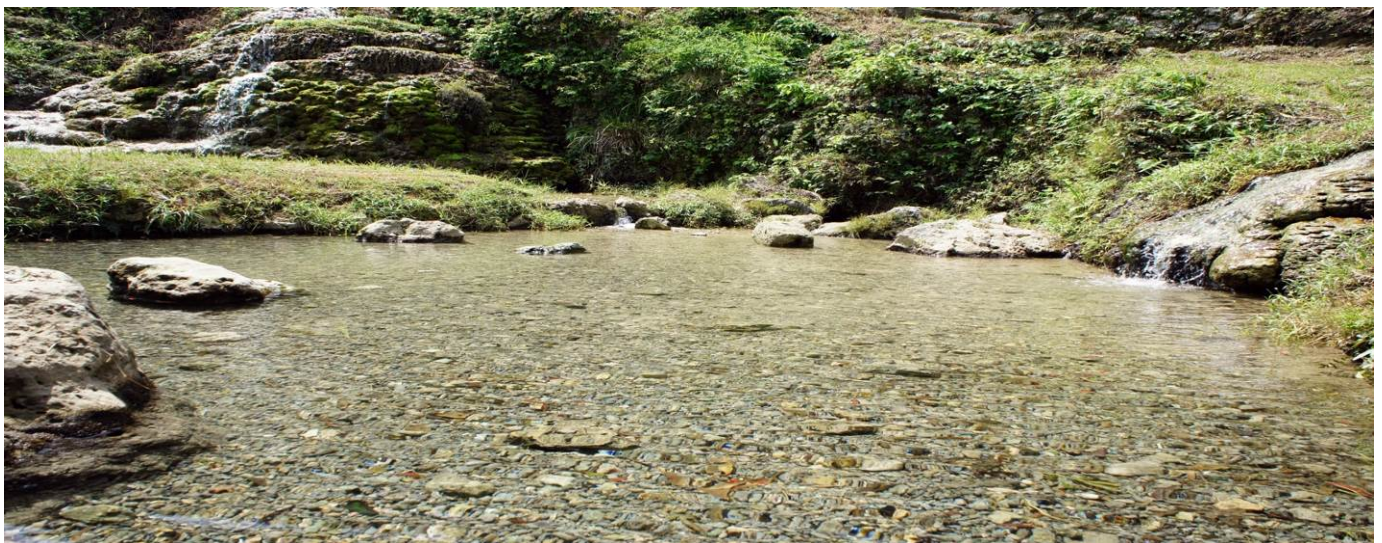
そんな南城市を通る国道 331 号線沿いに、その場所を示す小さな看板があった。看板の隣の小さな階段を少し登り、水田の隣の坂を登っているとかすかに水の音が聞こえてくる。徐々に大きくなるその音はまるで真夏のコンビニエンスストアのように、じんわりと汗ばんだ体を涼しげに包んでいく。垣花樋川は垣花集落の中腹に湧き出している湧き水を源流とする川で、ヒージャーは方言で共同の水場という意味である。湧出する水をコンクリートの二箇所の水路に引いて流し、水路から出た水は 2 m ほど下の泉に流れ落ちるようになっている。二箇所の水路のうち下から見て上流左側に位置するのは女川のイナグガー、下流右側に位置するのは男川のイキガガーと呼ばれ、それぞれ女川は女性が、男川は男性が沐浴に使用していたと言い伝えられている。それらより下へ少し行くと、馬に使用していたとされるウマアミシーと呼ばれる浅い泉がある。



女川・イナグガー ばんない堂 HP より

女川や男川は水深がやや深いため、幼少期の筆者は主にウマアミシー付近で遊んでいた。この場所では様々な生き物が小さな王国を築いており、筆者はよく捕まえては家へ持ち帰り一週間ほど育て、また逃すということを繰り返していた。透き通った泉の中にはカニやメダカ、イモリにテナガエビ、周辺にはトカゲやトンボなど本当に沢山の生き物がいた。ひとしきり川で遊んだあと、ベンチに座って休憩をとっていると、水が生み出した豊かな自然が周りに広がっていることに気づく。流れ落ちる水音、そよ風になびき、こすれあう草花。そして垣花樋川のある高台から見渡す真っ青な海と太平洋。まさに楽園だった。小さい頃はそういう世界に心躍らせ、自然を相手に走り回っていた。それがいつしか、TV や PC がもたらす世界へかじりつくようになり、地元の自然の美しさとその価値を思い出す頃にはそこから随分遠い場所に来てしまっていた。今あの場所はどのように変わったのだろうか。昔と変わらず、美しい楽園を保っているのだろうか。それとも観光客によって溢れかえり、心無い人によって荒らされてはいないだろうか。なぜ今まで忘れてしまっていたのか。

次に帰省するとき、昔の自分を探しに訪れたいと思う。



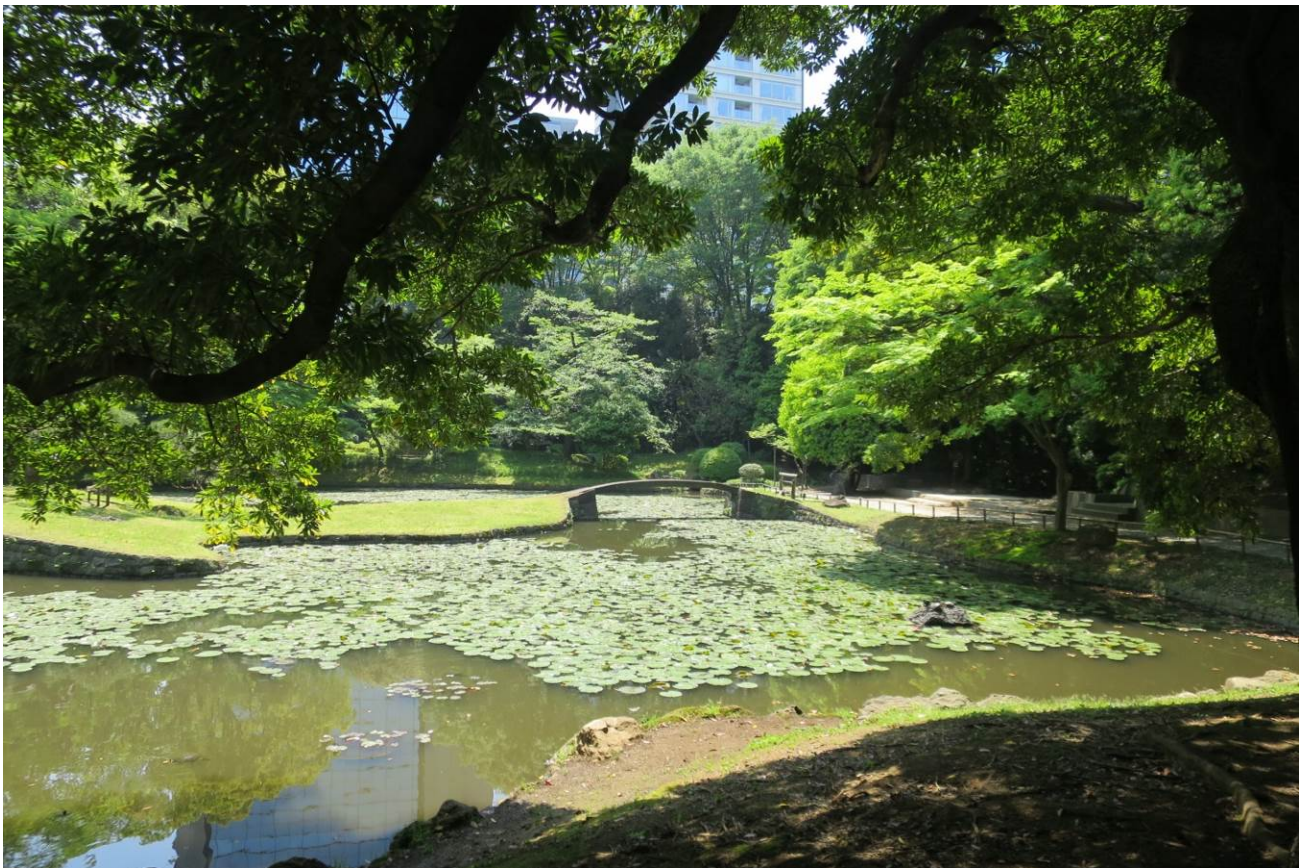
馬浴・ウマアミシー ばんない堂 HP より

(次号は 8 月号にて芦沢龍太郎さんにバトンを託します)

水辺からのメッセージ No.109

岡村幸二 (JRRN 会員)

水戸黄門ゆかりの庭園： 東京ドームや遊園地と隣合わせ 江戸初期の庭園様式を残す



撮影：2018 年 4 月 (東京都文京区・小石川後楽園)

◆水戸藩上屋敷のあった場所

歴史的には水戸藩初代藩主の徳川頼房が 1629 年に幕府に願い出て中屋敷 (のち上屋敷) としています。もともと沼であった心字池中央に配して神田上水の水を引き、伊豆から奇石を運んで趣をととのえたそうです。円月橋や西湖堤など中国の風物を取り入れ、中国趣味豊かな庭園です。

◆後楽園の意味する思慮深さ

後楽園の名は中国宋代の「岳陽楼記」による「先天下之憂而憂後天下之樂而樂」(士は天下の憂いに先んじて憂い、天下の楽しみに後れて楽しむ) という一節からとられています。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

河川書の探求(2)

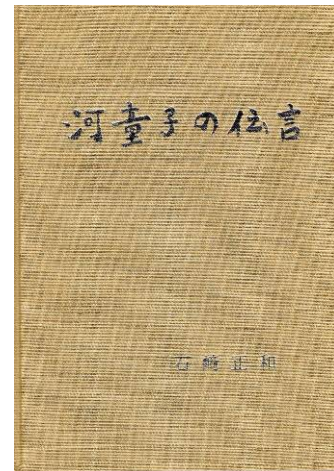
成富兵庫茂安 佐賀平野近世水利秩序の形成者

古賀邦雄 (古賀河川図書館・JRRN 会員)

成富兵庫茂安は、永禄 3(1560)年～寛永 11(1634)年の佐賀藩の人である。龍造寺隆信、鍋島直茂、勝茂に仕え、朝鮮の役などに活躍した武将であり、治政が安定してくると佐賀領内の水利及び治水の整備を行った。

平坦な佐賀平野は水利に乏しく、排水不良の地域であったが、兵庫は高度な水利技術をもつて佐賀平野を豊かな穀倉地帯に変えていった。

兵庫の業績は、①川上川の上流から巨勢川(こせがわ)までの江水路を引き新田の開発②嘉瀬川から佐賀城内の多布施川(たぶせがわ)に分水するための石井樋の築造③佐賀県北茂安町千栗(ちりく)から三根町坂口までの 12 キロの筑後川右岸堤、いわゆる千栗堤の施工④城原川の三千石堰の築造⑤佐賀市久保泉下泉地区までの横落水道の築造⑥田手川の蛤水道の築造⑦安良川幸津井堰の施工などが挙げられる。



石崎正和著『河童子の伝言』(石崎正和著作集刊行会・平成 9 年)から、成富兵庫茂安について次のように引用する。

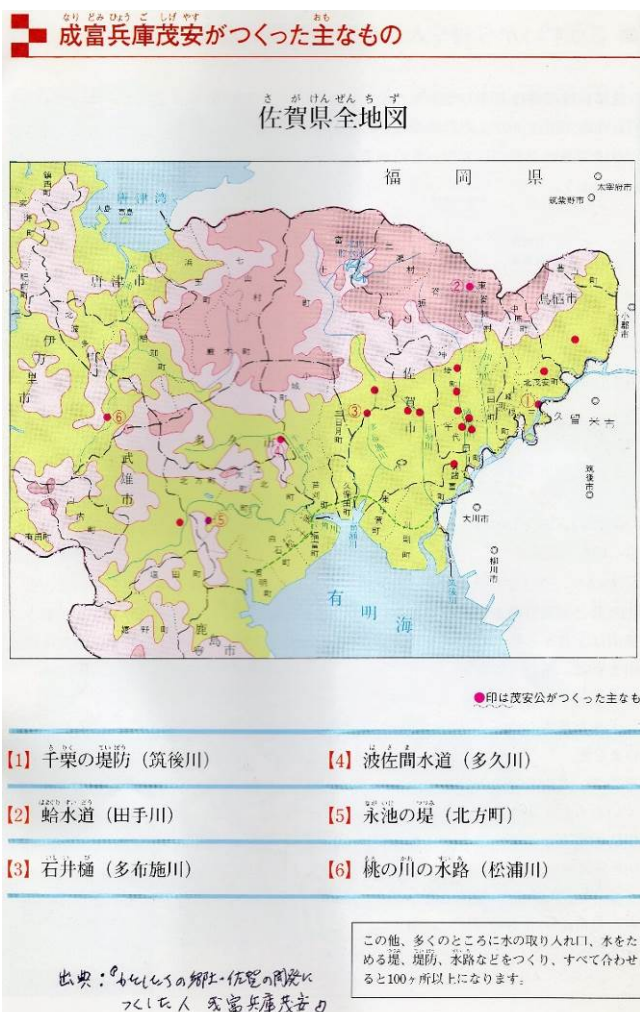
「成富兵庫が行なった水利事業の中で特筆されるのが石井樋と千栗堤であろう。石井樋の洪水対策は入念であり、兵庫の卓抜した技量が遺憾なく発揮されている。その巧みな工法は川幅の拡大による水勢の緩和、兵庫・遷宮荒籠や象・天狗の鼻、あるいは野越などの仕掛けによる水勢の緩和、上流遊水地による水量調節などみることができる。

千栗堤は、高さ 7.2 メートル、敷幅 54 メートル、延長 12 キロに及ぶ着工から完成に至るまで 12 年の歳月を要したいわゆる大工事であった。

堤防の川表には竹、川裏には杉を植え、堤防の強化を図るとともに、水防資材として活用することも考慮した。また堤防は二重になっており、川岸沿いの小堤との間は広いところで 180 メートルもあり、この間を洪水の遊水地として本堤の安全を図る工夫がなされている。」

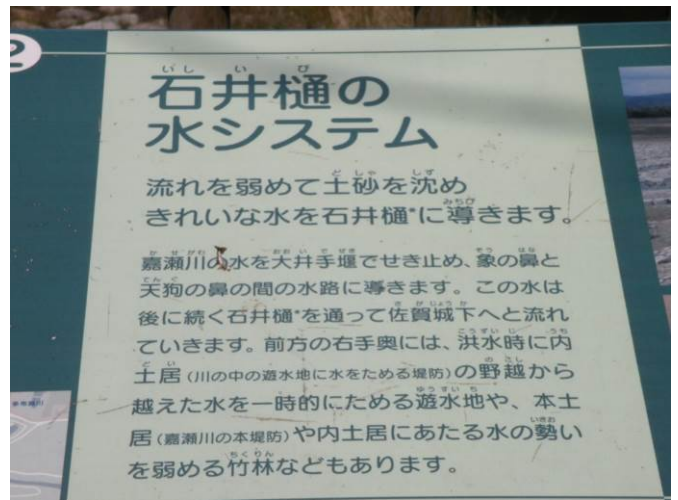
佐賀藩監察官・南部長恒は、兵庫の水利事業の事績を調べ天保 5(1834)年に『疏導要書上・下』を著した。その復刻版として農業土木学会古典復刻委員会編『疏導要書』(日本経済評論社・平成 4 年)、前山利雄・訳『疏導要書(現代語訳)』(平成 15 年)が刊行されている。田中耕作著『佐賀藩の初期を支えた男 成富兵庫茂安－戦場に、外交に、そして治水に－』(佐賀新聞社・平成 20 年)は、兵庫の生涯を含め、疏導要書、佐賀の市町村史にみる兵庫の治水・利水を論じている。

『疏導要書』の序文には、兵庫行なった水利事業は、黄河の治水を治めた<治水神・禹王>に優るものであると、讃えられている。





<嘉瀬川の石井樋>



<蛤水道の野越し> (佐賀県吉野ヶ里町)

兵庫に関する書として、眞田二松著『偉人成富兵庫』(秀英社・大正 6 年)、日野一雄・高場秀光編『成富兵庫茂安－その武略と民政』(佐賀県教育図書・昭和 63 年)、宮地米蔵監修、江口辰五郎著『佐賀平野の水と土－成富兵庫の水利事業』(新評社・昭和 52 年)、宮地米蔵著『佐賀平野近世水利秩序の形成－成富兵庫の水利事業』(久留米大学法学部第 16・17 号合併号・平成 5 年)、山口 甲著・発行『成富茂安の時代考』(平成 28 年)、小学 4 年生の社会教育のための土木イメージアップ連絡協議会編・発行『成富兵庫茂安－わたしたちの郷土、佐賀の発展につくした人』が刊行されている。

佐嘉神社の境内地に明治維新に活躍のあった佐賀七賢人として、鍋島直正、島義勇、佐野常民、副島種臣、大木喬任、江藤新平、大隈重信の碑が建立されているが、兵庫はこれらの七賢人に優るとも劣らない人物と言える。兵庫の水利秩序の確立は、佐賀藩 35 万 7 千石の経済体制をつくりあげ、さらには明治期における肥前国を雄藩として飛躍させた原動力となった。佐賀県内には、佐賀市兵庫町、南茂安、北茂安町が遺されており、兵庫の遺徳を今日まで偲んでいる。

<水澄みて筑紫次郎の歴史知る> (蓮尾美代子)

会議・イベント案内 (2018年6月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■ 2018 年度河川技術に関するシンポジウム

○日時：2018年6月12日(火)～13日(水)
 ○主催：土木学会水工学委員会河川部会
 ○場所：東京大学農学部弥生講堂(東京都文京区)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2703.html>

■ 第13回 隅田川クリーン大作戦

○日時：2018年6月16日(土) 9:00～12:00
 ○主催：隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会
 ○場所：隅田川中流域
<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3092.html>

■ 成富兵庫茂安の竹で有明海の牡蠣礁を復活しよう!

○日時：2018年7月28日(土) 12:30～18:00
 ○主催：久保田まちづくり協議会 他
 ○場所：佐賀有明海漁協久保田支所(佐賀県佐賀市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2789.html>

■ 第8回マザーレイクフォーラムびわこミ会議 2018

○日時：2018年8月26日(日) 10:00～16:30
 ○主催：マザーレイクフォーラム運営委員会、滋賀県
 ○場所：コラボしが21(滋賀県大津市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2771.html>

■ 皆様からのイベント情報提供をお待ちしています!

全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報のPRや共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。

(海外の河川・流域再生に関する主なイベント)

- 2018.6.4-8(フランス/リオン) 3rd International Conference on Integrative Sciences and Sustainable Development of Rivers (I.S.Rivers)
- 2018.8.19-24(東京) 12th International Symposium on Ecohydraulics (ISE2018)
- 2018.10.14-18(シドニー) 21st International Riversymposium

書籍等の紹介 *Publications*

■ 水辺の小さな自然再生～あなたもはじめてみませんか? (2017.3 発行)

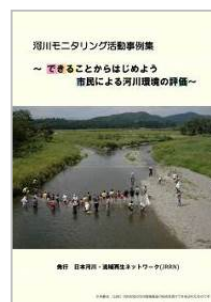
- ・発行：「小さな自然再生」研究会／日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・発行年月：2017年3月
- ・ページ数：16ページ



水辺でできる小さな自然再生の更なる普及促進を目的に、小さな自然再生の概要や取組む際の留意点、また「小さな自然再生」研究会による普及促進活動を紹介した簡易冊子です。

■ 河川モニタリング活動事例集～できることから始めよう 市民による河川環境の評価～ (2014.3 発刊)

- ・監修：白川直樹 筑波大学准教授(JRRN 理事)
- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■ 上記冊子の「印刷製本版」入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

Email: info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

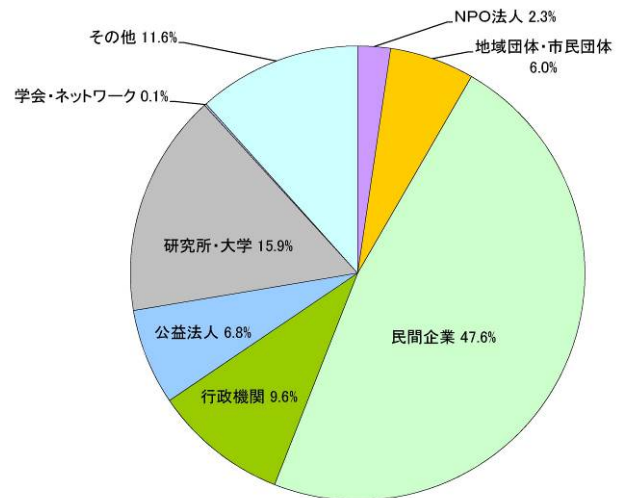
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2018年5月31日時点の個人会員の所属構成

(個人会員数：779名、団体会員数：59団体)

※5月の新規入会数：個人会員 2, 団体会員 0

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRAN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

